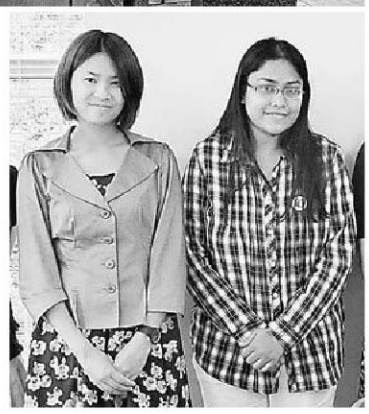
熊本市街の国際化度は？

熊本大大学院の留学生ら 訪日客目線でチェック

「英語情報 さらに充実を」

マップやＩＴ端末活用 提案

熊本大大学院ＨＩＧＯプログラムの留学生ら２人が「訪日観光客の目」で熊本市街を歩き、国際化度をチェックした。市内の観光施設や繁華街は訪日客にも魅力的なことが分かった。半面、英語で書かれた分かりやすい市内のマップや訪日客歓迎の飲食店、宿泊施設などの情報が不足。入手できる案内所が市街に必要なことも浮き彫りになった。　（編集委員　井芹道一）



（写真上）分かりにくかった繁華街の各通りに設置された４カ国語の表示＝熊本市新市街。（同中）和風の多言語・周辺案内板＝熊本市下通２丁目。（同下）訪日観光客の目で熊本の国際化度を調べた熊本大大学院のクムクムさん（右）と前田さん＝熊本日日新聞社

２人は博士課程後期1年のクムクム・ラーマン・ムーリーさん（バングラデシュ）と同前期1年の前田有紀さん。薬学・医学・社会学を英語で学ぶＨＩＧＯを履修している。

９月に5日間、熊日で開かれた「環境」と「観光」をジャーナリズムの視点で学ぶ企業研修に参加し、①新幹線で熊本駅に到着した外国人観光客②日本語が読めない―と仮定して取材。市電を利用し、市街や水前寺公園周辺を歩いた。

表示を高く評価

クムクムさんは、新幹線熊本駅の英語表示や総合観光案内所の存在を高く評価。市国際交流会館は「英語情報と貸自転車があり便利。もっとマップ上で目立たせて観光案内機能が加われば、利便性は増す」と指摘した。

訪日客の増加に合わせて熊本市中心街は、日英中韓の４カ国語による表示や周辺案内板が各所に設置され始めている。「分かりやすい英文の街中マップがあれば、訪日客はさらに助かるでしょう」

店舗やパンフに必要な情報として①何を売る店かの表記②訪日客歓迎の飲食店リスト③英語を話す従業員の存在④ネット無料アクセスの場所―を挙げた。

県伝統工芸館と県立美術館には英語パンフがある半面、立ち寄りやすい美術館分館の玄関周辺は「漢字のポスターが多く、入りにくい」「文化施設に英語対応のガイドがいれば訪日客にも魅力的な施設になる」とした。

役立つ路線図

一方、前田さんは「４カ国語の熊本市電案内は路線図が付いていて便利」。改善点として熊本駅電停の案内係に英語対応の人を置くか、タブレット端末を渡して英語で案内する方法を提案。「新型に加え、古い市電にも英語によるアナウンスが必要」と指摘した。水前寺公園では「チケット売り場に英語表記が必要。近くの洋学校教師館の場所も分かりにくかった」。

イスラム教徒で豚肉とアルコールを口にできないクムクムさんは「ハラール対応の飲食店の増加は歓迎だが、和食の店にも行きたい。メニューとスーパーの総菜に食材の表示を」と要望した。

九州2位の熊本

安倍政権は東京五輪が開かれる２０２０年を目標に、訪日客を13年の1千万から2千万人に増やす計画。観光庁の13年宿泊旅行統計によると、昨年県内に宿泊した外国人は延べ42万人で過去最多。全国14位。九州では福岡に次いで多い。

訪日客の受け入れが景観や地域の活性化、ビジネス機会につながるため、各県で受け皿づくりが進んでいる。

News の 眼